

令和3年9月 3日

南の風 For Junior59

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

先日、3人の中学校の指導者の方とメールでやり取りをした際に、話題となったのがミニバス、中学生以下の育成年代のオフェンスについてです。何を優先すべきか、ということです。

1on1の攻めを強化すべきということは、言うまでもなく皆さん一致しました。今回は1on1以外で皆さん（U15年代）に、学んでもらいたいチームオフェンスについて書きます。

三つ紹介します。一つ目はトランジション（攻守の切り替え）からの攻めです。

バスケットボールはカオス状態の予測不能な状況が続く中、ゲームが進行します。トランジションに上手く対応しボールを運ぶことができると、アウトナンバーを作りやすくなり得点を取る確率がかなり高くなります。

ここではディフェンスリバウンドからと、得点された直後のトランジションの速攻並びにボール運びに焦点を当てます。

両方に共通することについて書きます。一番大切なことは、味方がリバウンドを取ったときや相手にシュートを決められたときの、自分のいるポジション（位置）に気づき、素早く何をすべきか判断してプレーすることです。

攻めるリングに近い選手は、ランナーとして走ります。できれば左右のサイドラインに沿って2人が走ればベストです。タッチダウンパスのレシーバーを意識して走ります。

ランナー以外の2人はオープンに開くか、すぐにボールをつなぐかの判断をして動きます。パスが来ればキャッチの瞬間、前を見て縦へつなぐか、逆サイドからの合わせにつなぐか、またドリブルで前かミドルに進むかの判断をして動きます。

相手に得点された場合は、瞬時にエンドラインからスローインしますが、一番のねらいはリングに向かうランナーへのタッチダウンパスです。このパスができなければ、できるだけ高い位置（センターライン近く）にパスできるか確認します。この判断が極めて重要です。

ディフェンスリバウンドの奪取と得点された瞬間の切り替えは、常に5人が意識しておくことが大切です。読者の皆さんのチームでも、ぜひ全員で共通認識するようにしてください。

次に、ロングパスができなかったときのボール運びについてです。以前に南の風で紹介したフィギアエイトもその一つです。

チームに秀でたガード（特にドリブルのスピードや卓越したボールハンドラー）がいる場合は、その選手にボールを渡して任せざるやり方があります。

ただ皆さんの育成年代では、チーム全体で運び方を学び共通理解して取り組むことを奨めます。

まず縦にパスすることを考えます。縦パスはリングに近くなるわけですから有効です。縦パスができなければ、ミートしてくる味方に入れます。ボールが入れば、逆サイドの選手が合わせるようにします。パスに合わせるときには、基本的に逆サイドからの方が合わせやすくなります。パスができなければ、ドリブルでボールを進めます。

次の展開は次号にします。